

眠りSCAN（スキャン）の精度検証結果

2017年6月現在

■睡眠評価（睡眠と覚醒の判別）

- ▶ 腕時計型アクチグラフ※1との一致率、感度※2、特異度※3

健常者33名を対象とした場合	一致率 95.7%、感度※2 97.0%、特異度※3 71.2%
介護施設入居者12名を対象とした場合	一致率 85.9%、感度※2 89.1%、特異度※3 79.8%

- ▶ 健常者6名を対象とした終夜睡眠ポリグラフ検査（PSG）※4との一致率、感度※2、特異度※3
一致率 92.2%、感度※2 97.1%、特異度※3 34.2%（腕時計型アクチグラフと同等）
（腕時計型アクチグラフ※1との一致率97.4%、感度※2 98.2%、特異度※3 80.2%）

【根拠となる論文】 Journal of Physiological Anthropology, 30(3): 103-109, 2011

- ※1 睡眠研究で広く使用されている腕時計型の活動量計で腕の動き（加速度）から睡眠と覚醒を判別するセンサ
- ※2 基準となる測定方法（アクチグラフ・PSG）が睡眠と判定したものを、眠りSCANが正しく睡眠と判定した割合
- ※3 基準となる測定方法（アクチグラフ・PSG）が覚醒と判定したものを、眠りSCANが正しく覚醒と判定した割合
- ※4 睡眠評価のゴールドスタンダードで、脳波、筋電図、眼球運動などから睡眠状態を判定する。頭や体に多数の電極を装着する必要があるため、負担が大きい。